

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4373201146		
法人名	社会福祉法人鶴亀会		
事業所名	グループホーム龍ヶ岳		
所在地	熊本県上天草市龍ヶ岳町大道158番地		
自己評価作成日	平成21年10月3日	評価結果市町村受理日	平成22年3月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4373201146&SCD=3201
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	平成21年11月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者のその人らしい尊厳ある姿を大切にしています。くつろげる場所の確保と混乱せずに済む心遣いをしています。また、その上で、月にお1人様ずつ生活改善月間としてスタッフ全員で取り組み、処遇向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「匂いが無い、鍵をかけない、辱瘡をつくらない」をモットーに、何度も外出を試みる入居者にも鍵を掛けたり、言葉による抑制を行わず、「行ってきます」「ただ今」を繰り返しながら、スタッフが寄り添って個別の支援が行われている。ホーム内に漂うはんなりとした雰囲気は、スタッフと入居者の温かな関係に象徴され、団体行動より一人ひとりの要望に応える生活支援となっている。スタッフの定着性の高さから、利用者や家族との馴染みの関係も深く、記録も密に取られて分かりやすい工夫が施され、情報の共有化が行われており、安定した介護支援につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有して、具体的なケアについて意見の統一を図っている。	理念は「その人らしく」生活を支援すること。玄関壁に入居者9人の笑顔の写真の団扇にして飾り、その下に職員の顔写真と名前を掲示して訪問客を出迎える。「その人らしく」の文字は利用者の直筆による毛筆の作品で、ホームでの暮らしの様子が窺える写真を理念に添えて掲示し、日々の暮らしの実践の確認のひとつとされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域のお祭りには参加していないが、獅子舞や子供御神輿の訪問をお願いし来て頂いている。	利用者の介護度が重度化し、日常的に地域へ出向くことは難しくなっており、近くの幼稚園や小学校の訪問(子供みこし・獅子舞など)や、月2回の婦人会来訪・老人会・旧友の訪問を取り入れるなど、交流が図られている。外からの訪問は利用者の良い刺激となっており、母体特養の行事に参加することで施設内交流も行ない、付き合いを広げる工夫がされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の成果を地域の方に伝える場合は、運営推進委員会の場以外は今の所ない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、事業所からの報告と共に参加メンバーから質問、意見、要望を受け、双方向的な会議となるように配慮をしている。	運営推進会議が3年目を迎えたこともあって、地区代表と家族代表からの意見・要望・質問が多く出るようになっており、会議録にはグループホームでの暮らしの様子や活動状況、外部評価結果の報告と説明なども丁寧に記録されている。会議が双方向となり、協力関係がスムーズに行っている事が窺えた。	委員会参加者に、地域状況を熟知している地域包括支援センターや民生委員の参加があると、地域の情報交換も可能となり、多様な意見やアドバイスが得られるものと思われる。また、在宅で認知症の家族の介護に当たる介護者へ、応援的存在になられることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市職員の方の、運営推進会議以外の行き来をする機会が少ない。	行政との連携は、町村合併後以前にもまして運営推進会議に出席されているものの、会議以外の交流の機会がないようで、ホームでイベントを開催する際に招待するなど、積極的に関わりを持ち理解を深め、関係強化の関わりを工夫されると良いと思われる。	積極的なアプローチで、クリスマス会などのホームの行事へ招待したり、月1回のホーム内での研修会のテーマに「天草の高齢者生活の実態」など、行政からしか聞けない話を組み、講師を依頼するなど、更なる連携強化に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の方が外出されそうな様子を察知したら、止めるのではなく、さりげなく声を掛けたり一緒にいて行く等、安全面に配慮して自由な暮らしを支えるようにしている。	入居時に利用者と相談して名前の呼び方を決めており、利用者との信頼関係を大切に接するために、利用者の行動を否定しない接遇をモットーに対応している。毎月の研修会で「身体拘束をしない対応や接し方」を取り上げ、全職員の共通認識とし「拘束をしないケア」が心掛けられている。外出志向の動きには「行ってきます」と声かけし職員が付き添って出かけ、「ただいま」と帰宅。一日に数回は「行ってきます」「ただいま」の挨拶が飛び交い、自由な行動への支援がみられた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング等を実施し、高齢者虐待防止法に関する遵守に向けた取り組みを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強を行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって丁寧に説明を行っている。重度化や看取りについての対応、利用料金については詳しい説明を行い同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や態度から、その思いを察する努力をし、利用者本位の運営を心がけている。	家族がホームへ訪問された際に意見や要望を訊ねても、なかなか本音が聞けないことから、入居者と職員と一緒に自宅へ訪問し、直接家族から意見要望を徴集。得られた意見や要望は「情報ノート」へ記録されている。今までに聞きもらしていた本人の人生の歩みや家族の思いなども詳しく記録されており、全職員が目を通し、ホーム運営や介護計画に反映されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の定例の研修会の他、随時話し合える機会を設けている。	毎月テーマを決めてグループホームの食堂で研修会を実施。時には利用者も参加。管理者と一緒に考えて忌憚の無い意見を交換しあい、よりよい運営を目指している。外部研修にも若い職員と一緒に参加。研修の機会には休みの日でも呼び掛け、自ら参加するように促している。「研修記録ノート」には参加できなかった職員も情報を確認した全員のサインが見られた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は本人の意向を重視しながら職場内で活かせる労働環境作りにも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な内部研修を行い、外部研修にも習熟度の段階に応じて積極的に参加し、研修報告の機会も設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の連絡会があり、その中で交換研修やスタッフ研修を設けて質の向上に励んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用についての相談があった時は、必ず本人に会って心身の状態や本人の思いに向き合い、職員が本人に受け入れられるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めているものを理解し、事業所としてどのような対応が出来るか、事前に話し合いをして。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には、可能な限り柔軟な対応を行い、場合によっては、他の事業所のサービスにつなげる等の対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側される側、という意識を持たず、お互いが協働しながら和やかな生活ができるよう、場面づくりや声掛けをしており、入居者の方から「お互い様」の言葉があっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら日々の暮らしの情報共有に努め、本人様と一緒に支えるために支援していることを伝えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの商店や美容院に行き、知人の方と会話ができるよう、出かけて行く機会を作っている。	行きつけの美容院では「終わったら連絡します」と、従前からの信頼と安心の関係が継続しており、買い物も行きつけのお店で好きなものを買うなど、馴染みの関係を大切に継続し本人の気分転換にもなっている。また、昔からの友人の訪問や老人会からの友愛訪問など、以前からの外部との交流を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について情報を交換し、全ての職員が共有できるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了した後も、家族様からの相談にのっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、声を掛け、把握に努めている。希望意向があった場合はすぐに記録するようにしている。	個別の情報を収集した「情報ノート」には、利用者から語られた生活歴や旅行の思い出、お酒の好みなど、その都度書き留められている。記録には聴き取った利用者の名前と記録した職員名が記入され、全職員が情報を共有できるシステムになっており、ホームの暮らしに活かしている。また、食事会やクリスマス会など、特別行事の前にはカウントダウンで開催日までを数え、心待ちにして楽しんでもらえるように演出。遠方にいる家族から夕方6時に電話がかかる。会話ができなくても声を聞くだけ、雰囲気や様子だけでもいいとのこと、時には職員との会話になることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時に、ご本人や家族の方から聴き取りを行っている。又、ご本人から聴いた事をすぐに記録するノートがある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解するとともに、出来ないことより、出来ることを注目し、その人全体の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族には、日頃のかかわりの中で意見を聞き、反映される様にしている。アセスメントを含め職員全員で意見交換を行っている。	以前は家族からの要望が出にくかったが、施設から利用者宅へ訪問することで本音で話が聞けるようになり、家族の意見や気付きを介護計画に反映する努力が見られた。週2～3回の訪問がある家族は介護計画やケア記録にも全て目を通してホームでの様子を確認されている。また、「情報ノート」「申し合わせノート」「夜勤申し送りノート」をアセスメント会議の中で活用し、介護のモニタリングにしている。一人ひとりの介護計画はよく記録されており、変化のあった箇所はマーカーで見やすくし、全職員が一目で分かる工夫が見られた。各々のノート、記録には総ての職員のサインがあり、全職員で利用者の情報を共有している状況が確認された。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの様子や、ご本人の言葉を記録しており、それを職員が確認できる様にしてあり、勤務前の確認は義務付けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様、家族様の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域での暮らしを続けられる様、地区区長、消防指導隊長さんと意見交換をする機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族と協力し通院介助を行ったり、訪問診療に来てもらうケースもあり、複数の医療機関と関係を密に結んでいる。	受診、通院は基本的には家族同行となっているが、本人・家族の希望に応じて対応しており、受診後の結果はすぐ家族に伝えている。看護職員は隣接する母体法人から毎日訪問を得、利用者の状態や持病を把握され、健康チェックが行なわれている。状態に変化が見られた際の支援体制が構築されて、訪問診療は複数の医療機関と受診支援ができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常に状態変化に応じた支援を行える様にしている。看護職員がいない場合でも、電話連絡により指示を受け対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人の支援に関する情報を医療機関に提供し、三日に一回は職員が見舞うようにしている。また家族様とも回復状況等、情報交換をしながら速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末に対する対応指針を定め、入居時に意志確認書を記入頂いている。	入居者と共に家族も高齢化し、身体不安を抱えており「将来はここに入居したい」との要望もある。終末期の対応については入居時説明し、家族から意思確認書を得ているが、ホームでの看取りは医療対応などで難しい問題もあり、依頼があればその都度説明し、話し合う態勢になっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時の対応マニュアルをスタッフの部屋の壁に貼り、常にイメージできる様にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、消火器の使い方などの訓練を定期的に行っている。	法人敷地内で合同の訓練を消防署の協力のもと実施。避難訓練、消火器の使い方など、定期的に行なっており、隣接の特養からの応援態勢がある。グループホームから出火という想定での訓練や、火元が隣接する特養という想定での訓練も行い、全職員参加で出火場所によって異なる避難訓練を実施。電話1本で連絡できる体制となっているが、年2回実施される抜き打ちの訓練には、行方不明者の搜索を想定する場面もあり、実際に訓練が役に立ったという貴重な体験がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要な時も、まず本人様の気持ちを大切に考えて、さりげないケアを心掛けたり、自己決定しやすい言葉かけをするように努めている。	一人ひとりのペースに合わせたケアを心がけ、何よりも本人の気持ちを大切に対応している。耳の不自由な方には筆談や目と目を合わせながらのコミュニケーションで意思の疎通をする様子が見られた。尿失禁の際には職員同士でわかりあえる合言葉を準備し、他の人には分からない対応とし、本人の誇りやプライバシーへの配慮を工夫している。新人研修の際は利用者との見守りの距離をどう保って接するかを大切に指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状況に合わせ、本人様が答えやすく選びやすいような働きかけをしている。難聴の方には筆談し曖昧な伝わり方にならないよう気をつけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながら、その日、その時の本人様の気持ちを尊重して、出来だけ個別性のある支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさを保てるような手伝いをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力を活かしながら、片付けを一緒に行ってもらっている。	利用者の高齢・重度化ということもあり、以前のように職員と一緒に食事の準備や片付けをするということが少なくなっている。現在は料理の味見をしてもらい、お茶入れが出来る方が2名ほど。三度の食事を楽しみに、全員が介助なしで完食されていた。好き嫌いもなく何でも食べられ、健康の基となっている。普段は何でもおいしいという利用者も、誕生会では自分の好みを意思表示し食事を楽しんでおり、職員は鍋料理や山菜御膳会を実施する際は一緒に楽しんでいるが、通常は入居者の介助と見守りを職員の食事と区別した対応としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量も個々に合わせて確認するようにし、ご本人の好きな物や食べやすいものを出すようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一日三回、うがいを実施して頂いており、夕食後は歯磨きを本人の能力に応じて支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を大切にしながら、紙パンツ、パッド類も本人様に合わせて検討している。	日中は全員がオムツをはずしトイレを利用。歩行困難・車椅子の利用者には早めの誘導を行なうなど、一人ひとりの排泄パターンに合わせたトイレ誘導がみられた。自尊心に配慮し職員間のみが理解する言葉掛けで自尊心やプライバシーへの配慮が行われ、利用者の様子や状態に応じて手を差し伸べたり歩行介助している。失敗した時も周囲に気づかれないよう職員同士に分かる合言葉で支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの食事、排泄、活動状況等を見直し、自然排便を促す工夫を個別にしている。又、腹部マッサージも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望時に入浴して頂いており、入浴を拒まれる方に対しては、言葉かけや対応の工夫、チームプレイ等によって気分よく入浴される様配慮している。	午後からの入浴を希望する人が多く、利用者が気持ち良く安心して入浴できるよう2名の職員が対応。入浴拒否の入居者はほとんどなく、季節に合わせて、ゆず湯・しょうぶ湯などで、気分良く入浴が楽しめる工夫が対応されていた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整える様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の内容(目的、用法、用量、副作用)を把握できるよう、最新薬情報としてファイルしている。又、法人全体での薬についてのテストも時々あっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえる様、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝える様にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの散歩だけでなく、その人の馴染みの店や場所へ出かけている。	高齢化・重度化に伴い全員で外出する機会は少なくなったが、本人の希望に沿うようように、その時々に応じて個別の外出支援を実施。一人ひとりの行き先を聞いて美容院・行きつけのお店へ買い物に出かけたり、季節の花見には近くの公園へドライブに出かけて四季を感じてもらおう等、短時間でも外出する機会を作ってストレス発散できるよう配慮も行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所が管理している人でも、外出時のお金は自分で払って頂けるように、お金を手渡すなど工夫をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月近況報告を行い、入居者本人にお願いして書いて頂くこともある。又、手紙や絵手紙等も出している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆず湯や菖蒲湯、鍋料理や山菜御膳会など、五感刺激と季節感を感じて頂く事を意識した工夫をしている。	玄関先からは天草灘を望むことができ、冬は日当たりがよく夏は風通しがよく、明るく静かな環境にある。皆で寛ぐリビングコーナーの壁には利用者の俳句作品や写真が飾られ、次の作品制作を職員が誘導する会話が聞かれたり、テレビの話題に話が飛ぶなど、ゆっくりとした時が流れていた。居室前の廊下の隅には一人になるスペースも確保されているが、利用者にとってはあまり広くはないが会話が聞き取れ、触れ合うこともできるリビングが利用者の落ち着く場所となっていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	他の人の気配を感じながらも、一人で過ごせる居場所作りの工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの利用者の好みや馴染みの物などを、生活スタイルに合わせて用意している。	「私の部屋はここ」と、入り口横に名前が分かり易く掲示され、各部屋には好みに合わせた家具や思い出の写真・小物・花等が置かれている。中には大好きな人形をベッドに寝せて添い寝したり、娘さんからのプレゼントというボタンを押すと好きな歌を聴くことができる「ジュークボックス」で、何回も繰り返し歌を聴き楽しむ入居者も見られ、家族の協力とスタッフの支援で居室での時を楽しむ工夫も見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人様にとって「何が分かりにくいのか」「どうしたら本人様の力でやって頂けるのか」を追求し、状況に合わせて環境整備に努めている。		